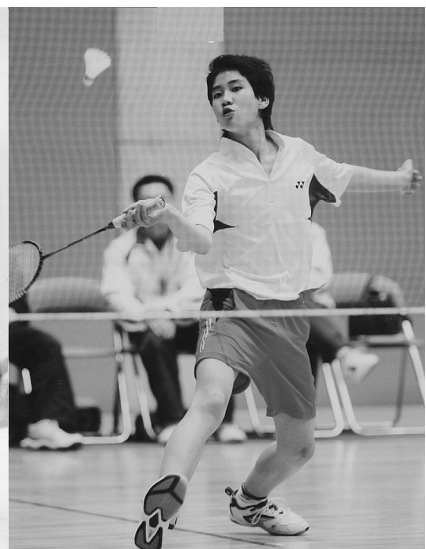




第6回 全日本中学生バドミントン選手権大会
平成18.3.25~27 於 青森県武道館スポカライン黒石

す。部員が少ないので遑って紹介しますと、2006年卒業生は1名で東京大理Ⅱ、2007年卒業生は8名で東工大1類・群馬大医学部・昭和大医学部・大阪大経済学部・青山学院大文学部・Brigham Young大・城西大薬学部・関西学院大社会学部です。2008年卒業生は1名で筑波大理工学類、2009年卒業生も1名で麻布大獣医学部です。

次に、常勝バドミントン部。今年の夏も高校では男子が優勝、インターハイ（全国大会）に駒を進めています。今年2009年卒業生のうち、団体戦レギュラー6名の進学先を紹介すると、男子6名は浜松医大医学部・筑波大医学類・東京海洋大学（国立です）海洋工学部・神戸大海事科学部・高知大文学部・浪人、です。女子の6名は筑波大体育学類・昭和大薬学部・明治大商学部・文教大文学部・日本女子大人間社会学部・帝京科学大生命環境学部です。この筑波大体育学類に進学した生徒も、インターハイに勝ち進んでいます。が推薦ではなく一般受験で進学しています。

どの生徒も、しっかり授業に臨み、個人課題研究という論文も立派に仕上げ、思いっきりスポーツも楽しんできました。

学校とスポーツ

今や高校スポーツの主流選手は「スポーツ特待生」です。中学時代にその種目や似た種目で活躍した選手を、奨学金や授業料免除という特典をつけて推薦入学させます。どれだけそのような選手を多く確保できたかで全国大会での順位が決まる、というのは常識です。全国大会での彼らの活躍が校名を高め、募集活動に有利になるため、学校も「投資」します。

しかしそこには、その選手たちの将来への配慮はまったくありません。一握りの有名選手がプロになり、または大学にスポーツ推薦で進学し、実業団でプレイできているという現状です。

茗溪学園は発想からまったく異なる、というよりは本来の学校スポーツの姿を維持しながら、尚且つそういうスポーツ特待生たちと全国大会で伍しています。正月、ラグビーの全国大会で試合のない日の茗溪生は大阪花園のホテルでセンター試験の勉強をしながら、です。

ラグビーが人生なのではなく、ラグビーを楽しみながら自分で自分の人生を切り拓いているのです。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL : 029-851-6611(代) FAX : 029-851-5455

HP : www.meikei.ac.jp E-mail : entry@meikei.ac.jp

田代 淳一（たしろ じゅんいち）

茗溪学園中学校高等学校 教務部長・教員（化学）



茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。

「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつめ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。

海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。



「学校は学力を身につけるところ。そのための体力・精神力のトレーニング (Discipline) が必要だから」は、「学校でのスポーツの目的は？」との私の問いへの、現地校の先生の回答でした。

茗溪の「ひとりの生徒の中の文武両道」は、この回答を実践しています。日本の少し古い学校教育では「学力向上のためのスポーツ」でした。それが偏差値教育で崩れ、学校内で「文」と「武」の担当が分かれるように…。

その先生「プロを目指すならば、学校外のクラブチームで」とも言いました。日本の学校の一部は、プロ養成所？